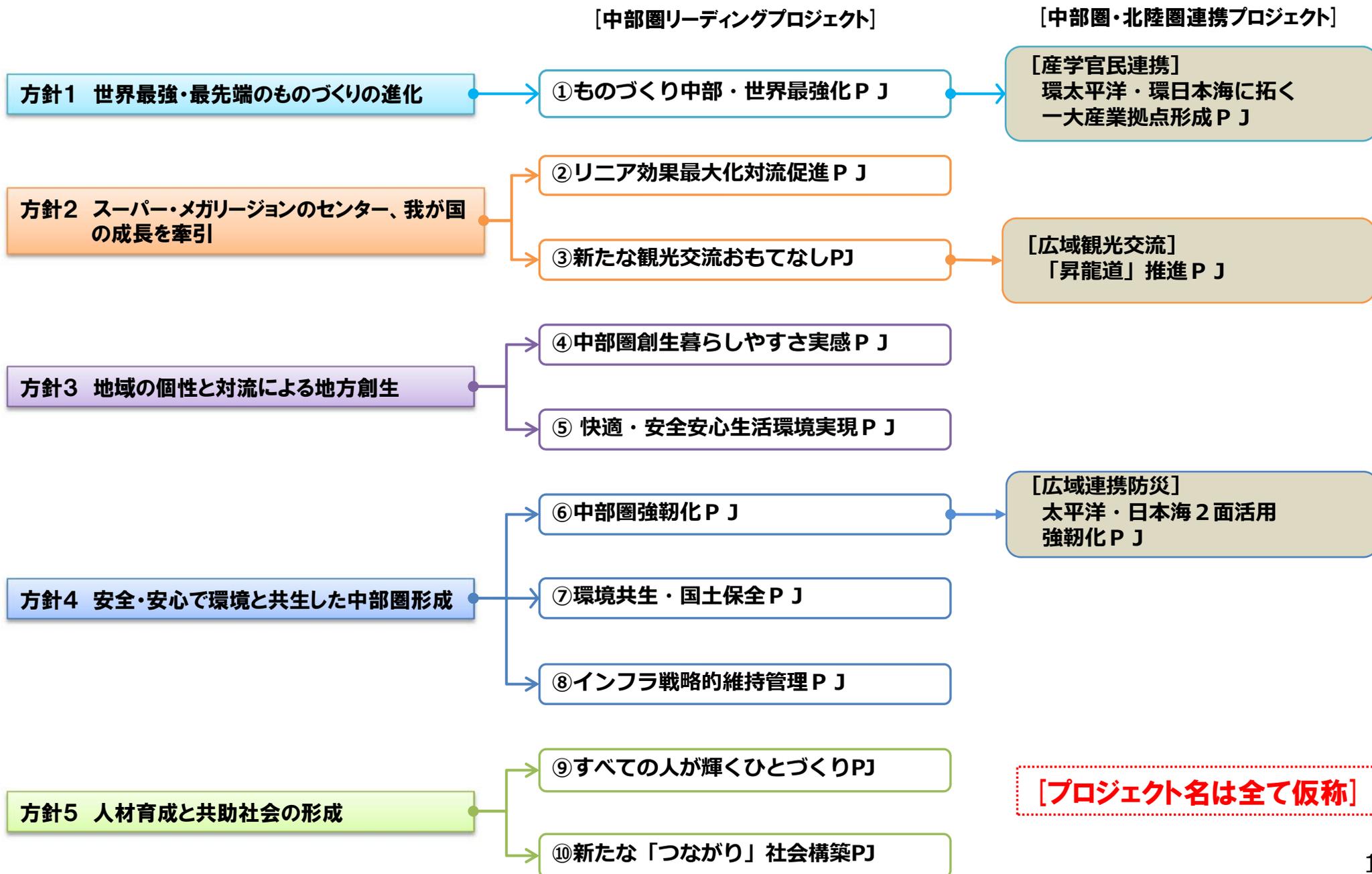


■プロジェクト構成について

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

[第4章 新たな中部圏の実現に向けた戦略]

資料4-1



方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

1. 我が国の成長を担う産業の強化

～企業の国内回帰・海外の対日投資を呼び込む～

(1) 中部圏の産業競争力の強化、世界最強・最先端のものづくり中枢圏の形成

- ① 中部圏の戦略産業の強化
- ② ものづくりマザー機能の強化
- ③ グローバル展開の支援

(2) ものづくり産業を支える中堅・中小企業の振興

(3) 環太平洋・環日本海に拓かれた一大産業拠点・中部北陸圏の連携強化

2. 高度なものづくり技術の活用による新たな産業の創生

(1) ものづくり産業に関連する新たな産業の創生

(2) 大学や官・民の研究施設等のネットワーク強化による更なる研究力の強化

3. 水素社会実現などの新しい世界モデルの提示

4. 国際競争力を支える産業基盤の強化

(1) 基幹産業を支える国際物流拠点の強化

- ① 国際拠点港湾等の機能強化
- ② 国際拠点空港の機能強化
- ③ 空港・港湾の安全性強化

(2) ものづくり産業を支える陸海空の拠点を結ぶ道路ネットワーク強化

(3) 将来を見据えた総合的な土地の利活用

(4) 安定したエネルギー供給の多様化・水資源の確保

【方針5】人材育成と共助社会の形成

1. 中部圏を支える人材の育成と確保

(1) 高度人材、グローバルに活躍する人材

①ものづくり中部・世界最強化PJ

- ・人材力・技術力・集積力、加えて研究力、品質力に更なる磨きをかけ、次世代自動車関連産業や航空宇宙産業など世界最強、最先端のものづくりへの進化
- ・ICTやものづくり技術の活用・応用による新たな産業創出、水素技術の実社会への先導的な還元など
- ・産業活動を支える陸海空の産業基盤ネットワークの拡充、強化
- ・ものづくり中枢圏・中部の国際競争力のさらなる強化
- ・さまざまな価値を創造する中部のものづくり、国内外からビジネスチャンスを求めて、ヒト、モノ、カネ、情報が集まり対流する熱源となり
- ・世界最強のものづくり中枢圏を構築

戦略産業強化、新産業創出・育成

- ・中部圏の産業競争力の強化
- ・先端技術の積極的活用による新産業の創出
- ・大学や官・民の研究施設等の研究力の強化
- ・環太平洋・環日本海に拓く一大産業拠点の形成

中堅・中小企業の高度化

- ・ものづくり中堅・中小企業の振興

人材育成

- ・高度人材、グローバルに活躍する人材の育成・確保

インフラ

- ・国際競争力を支え世界から投資を呼び込む基盤・環境整備
- ・世界をリードする水素社会の基盤整備
- ・エネルギー供給の多様化、安定したエネルギーの確保、水資源の確保

中部圏・北陸圏連携プロジェクト

「産学官民連携」

環太平洋・環日本海に拓く一大産業拠点形成プロジェクト

方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

【第3章 基本方針に係る具体的方策】

1. リニアを活かした新たな中部圏の形成 ～日本のハートランド・中部～

- (1) 中部圏の役割と中部固有の新たな価値の創造
 - ① スーパー・メガリージョンにおける中部圏の役割
 - ② 中部圏の新たな価値創造(企業活動・経営の構造転換、多様なライフスタイル等)
 - ③ 日本のハートランド・中部
- (2) 国際競争力のある階層的大都市圏構造の構築
 - ① 大名古屋への変革を図る名古屋大都市圏、世界のNagoyaへ
 - ② 活力ある都市の連なりで強みを増す中京大都市圏
- (3) リニア中間駅を核とした地域づくり
 - ① リニア長野県駅(飯田地域等)
 - ② リニア岐阜県駅(中津川地域等)
- (4) 東海道新幹線及び、新東名高速道路沿線地域へのリニア効果を活かす地域づくり

2. リニア効果の中部・北陸圏への広域的な波及

- (1) 名古屋駅のスーパーターミナル化
- (2) 広域波及のためのネットワーク強化
 - ① 中部国際空港の機能強化、並びに名古屋駅とのアクセス強化
 - ② リニアと一体となった道路・鉄道ネットワークの強化

3. 国際大交流時代を拓く観光・交流

- (1) 国内外との観光・交流の促進
 - ① 中部国際空港やリニア駅を核とした広域観光交流圏の形成
 - ② 昇龍道プロジェクトの展開強化
 - ③ 観光産業の国際化
 - ④ クルーズの振興、普及
- (2) 国際交流拠点としての魅力創造・発信、MICE、コンベンション機能拡充強化

【方針3】地域の個性と対流による地方創生

4. 地域の個性を活かした交流連携の創出

- (1) 地域資源を最大限活用する観光振興・観光業の活性化

②リニア効果最大化対流促進PJ

- ・世界を先導するスーパー・メガリージョンのセンターポジションを担う中部
- ・名古屋大都市圏などと各都市・地域が連携、融合した日本のハートランドを形成
- ・産業構造の転換やライフスタイルの変革など中部圏の新たな価値を創造
- ・中部圏へのエンタランス、中部国際空港と名古屋駅の一体化
- ・名古屋駅、リニア中間駅の拠点性を高めた新たな地域づくり
- ・高速交通ネットワークの強化、リニア効果を中部・北陸圏の広域に波及

中部圏の新たな価値創造

- ・リニアを活かす産業構造転換、新たなライフスタイル創出

リニアを活かしたまちづくり

- ・国際競争力のある階層的大都市圏構造の構築

- ・リニア中間駅を核としたまちづくり(長野県駅、岐阜県駅)

- ・リニア効果を活かす東海道新幹線・新東名沿線地域づくり

インフラ

- ・リニア効果を中部圏全域に波及させる基盤・環境の整備

③新たな観光交流おもてなしPJ

- ・リニア中央新幹線、東海道・北陸新幹線による高速鉄道環状ネットワーク
- ・高速交通ネットワークを最大限活かし、国内外の様々な観光需要を取り込む
- ・広域的な観光交流圏のさらなる拡充
- ・格段に向上する国際交流ポテンシャル、MICE(国際会議・国際見本市等)や文化芸術イベントの誘致、国際スポーツイベントの招致促進
- ・受入環境の整備促進

国内外との観光・交流

- ・中部国際空港やリニア駅を核とした広域観光交流圏の形成

- ・地域資源を活かした観光交流の促進

- ・クルーズの振興・普及

国際イベント・コンベンション

- ・MICEや文化芸術イベント等による魅力創造・発信

インフラ

- ・高速交通ネットワーク・空港港湾機能強化、MICE受入環境

中部圏・北陸圏連携
プロジェクト

「広域観光交流」

「昇龍道」推進プロジェクト

方針3 地域の個性と対流による地方創生①

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

1. コンパクト+ネットワーク

- (1)「小さな拠点」の形成・活用による持続可能な地域づくり
 - ①「小さな拠点」の形成
 - ②「道の駅」や「みなとオアシス」などの有効活用
- (2)地域特性に即した「コンパクト+ネットワーク」による対流の促進

2. 広域的な連携により創り出す都市圏・地方圏の形成

- (1)連携中枢都市圏や定住自立圏構想による新たな広域連携
 - ①連携中枢都市圏の形成
 - ②定住自立圏構想の活用
- (2)地域の個性や特性を活かした広域連携による地域づくり

3. 地域産業の活性化による地域活力の維持・発展

- (1)地域を支える農林水産業の強化
 - ① 農業
 - ② 林業
 - ③ 水産業
- (2)地域住民の生活を支える地域消費型産業の振興

4. 地域の個性を活かした交流連携の創出

- (1)地域資源を最大限活用する観光振興・観光業の活性化
 - ①中部ならではの多種多様な地域資源
 - ②地域資源の保存、継承、磨き上げ、掘りおこし、活用による観光交流
- (2)歴史・文化の魅力を活かしたまちづくり
- (3)伝統工芸の振興

④中部圏創生暮らしやすさ実感PJ

- ・地域の実情や特性に応じたコンパクト+ネットワークによる地域づくり
- ・地域資源や個性を活かした交流連携や、ものづくり産業や観光、農林水産業など地域産業の活性化
- ・地域に活力を生み、就業が安定的に確保され、豊かさを実感できる社会構築
- ・働き住み続けたい中部圏を創生

地域づくり・まちづくり

- ・「小さな拠点」の形成
- ・地域特性に応じた「コンパクト+ネットワーク」の形成
- ・地域資源や個性を活かした交流連携の創出

地域経済活性化

- ・地域産業の活性化による地域活力の維持・発展

広域連携

- ・高次都市機能等の相互補完連携
- ・歴史的・地形的なつながりなど個性・特性を背景とした広域連携
- ・三遠南信地域連携

インフラ

- ・「コンパクト+ネットワーク」広域連携を支える道路・公共交通ネットワーク等

方針3 地域の個性と対流による地方創生②

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

5. 快適で安全・安心な生活環境の構築

- (1) 住民や利用者ニーズにマッチした次世代交通システムの構築
 - ① ICT・新技術等を活用した次世代交通システムの構築
 - ② モビリティセンターの構築
- (2) 住民生活の安全・安心の確保
 - ① 安全・安心な交通環境
 - ② 治安・防犯面等における安全の確保

⑤ 快適・安全安心な生活環境実現 P J

- ・ICT・新技術等を活用した環境負荷の少ない次世代型交通システムの構築
- ・多様な住民ニーズに対応する交通システムの構築
- ・道路など公共空間における安全性並びに、住民の治安・防犯等生活面での安全性向上
- ・快適・安全安心な生活環境を実現

快適・安全安心なまちづくり

- ・次世代交通システムなど多様なニーズに応じた交通環境
- ・安全・安心な生活環境

中部圏・北陸圏連携
プロジェクト

方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成①

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

1. 災害に対して粘り強くなやかな国土の構築

- (1) 南海トラフ地震に備えた強靱な国土の構築
 - ① 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議の取組
 - ② 国土交通省の取組
 - ③ 各県・市町村等の取組
 - ④ 南海トラフ地震に備えた強靱な国土の構築
- (2) 頻発・激甚化する自然災害への対応
- (3) 都市の防災・災害対策の推進
- (4) ものづくり産業の防災力強化
- (5) 広域的な連携による支援体制の強化
- (6) ネットワークの多重性・代替性の確保、並びに首都圏のバックアップ体制の強化
 - ① ネットワークの多重性・代替性、太平洋・日本海2面活用型の強靱な国土の構築
 - ② 首都圏のバックアップ体制の強化
- (7) 地域防災力の向上

⑥ 中部圏強靱化 P J

- ・切迫する南海トラフ地震、頻発・激甚化自然災害、大規模自然災害に備え
- ・産学官民が一体となりソフト・ハード両面で防災・減災対策
- ・被害の最小化、被災後も迅速な復旧・復興、中部圏の防災力をより強固
- ・首都直下型地震が懸念される首都圏のバックアップ機能を備えた
- ・太平洋・日本海2面活用の強くなやかな国土基盤を構築

強靱な国土基盤の構築

【南海トラフ地震や自然災害等への備え】

- ・南海トラフ地震、頻発・激甚化する自然災害への備え
- ・都市の防災・災害対策の推進

【広域連携支援体制強化】

- ・広域的な連携による災害支援体制の構築
- ・ものづくり産業の防災力強化

【ネットワークの多重性・代替性確保、首都圏バックアップ機能強化】

- ・ネットワーク多重性代替性確保

【地域防災力強化】

- ・自助・共助による地域防災力の向上

「広域連携防災」太平洋・日本海2面活用強靱化プロジェクト

方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成②

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

2. 環境と共生した持続可能な地域づくり

- (1) 自然環境の保全・再生、環境と調和した美しい景観・国土づくり
 - ① 生物多様性の確保
 - ② 沿岸域の海洋環境の保全・再生
 - ③ 自然と調和する美しい景観の創造・保全
- (2) 持続可能な都市・地域づくり
 - ① 低炭素型社会の構築
 - ② 大気環境の保全
 - ③ 持続可能な社会を支える担い手づくり

3. 国土の適切な保全

- (1) 健全な水循環、総合的な土砂管理による循環型国土の構築
 - ① 健全な水循環
 - ② 総合的な土砂管理の推進
- (2) 物質循環の安定的確保による地域循環圏の形成
- (3) 森林や農地の整備・保全
 - ① 森林
 - ② 農地

4. インフラの維持・整備・活用

- (1) インフラの戦略的なメンテナンスの推進
- (2) インフラの戦略的な活用（賢く使う）
- (3) 民間活力の活用
- (4) 地域の守り手・建設業の強化、担い手の育成・確保
 - ① 地域の守り手・建設業の強化
 - ② 担い手の育成・確保

⑦環境共生・国土保全PJ

- ・多種多様な自然環境や生物多様性を将来に渡り維持、保全
- ・森、里、川、海が連環した自然環境や生態系ネットワークの保全・再生
- ・環境負荷の少ない低炭素型社会
- ・水や土砂が健全に循環、循環型国土、物質循環の安定的確保、地域循環圏
- ・森林・農地の持つ多面的な機能による国土保全
- ・環境と共生し国土が適切に保全された持続可能な中部圏を形成

国土管理(環境)

[自然環境の保全・再生]

- ・生物多様性の確保、自然と調和する美しい景観・国土づくり

[環境負荷低減、持続可能な社会の形成]

- ・低炭素型社会の構築

- ・大気環境の保全

- ・持続可能な社会を支える担い手づくり

[国土保全]

- ・健全で安定した循環型国土・社会の構築

- ・伊勢湾再生プロジェクトの推進

- ・水源涵養など多面的機能を有する森林・農地の整備・保全

⑧インフラ戦略的維持管理PJ

- ・国民生活や社会経済活動を支えるインフラの老朽化が急速に進行
- ・機能を確実に維持し、ストック効果を発揮し続けるため
- ・民間活力を活用しつつ、インフラの戦略的なメンテナンス、インフラを賢く使い
- ・中部圏の生産性向上に貢献
- ・地域やインフラの守り手である建設業や、その担い手の育成・確保
- ・インフラが適切に管理された安全・安心な中部圏を構築

国土管理(インフラ)

[メンテナンス・活用]

- ・戦略的なメンテナンス、戦略的な活用（賢く使う）

[民間活力の活用]

- ・PPP/PFI、コンセッション方式導入

[地域の守り手支援]

- ・建設業の強化、地域の安全・安心、インフラを担う人材育成・確保

中部圏・北陸圏連携
プロジェクト

方針5 人材育成と共助社会の形成

[第3章 基本方針に係る具体的方策]

1. 中部圏を支える人材の育成と確保

(1) 高度人材、グローバルに活躍する人材

①ものづくり中部・世界最強化PJ [再掲]

・高度人材、グローバルに活躍する人材の育成・確保

(2) 地域を支える人材

・若者や女性、高齢者、外国人など地域で生活する一人一人が夢や希望を持って安心して働き、暮らし続けること
・地域の担い手として主体的に参画し、活躍できる環境を整備

2. 全ての人々が参画し輝く社会の形成

- (1) 女性活躍社会の実現
- (2) 高齢者参画社会の促進
- (3) 障害者共生社会の形成
- (4) 多文化共生社会の形成

⑨すべての人が輝くひとづくりPJ

すべての人々が輝く社会形成

- ・多様な人材を育て活躍できる社会の形成
- ・安心して子どもを産み育てワークライフバランスを実現する女性活躍社会
- ・高齢者の経験、能力を活かせる社会
- ・自らの意志に基づき社会参画し能力を最大限発揮し得る障害者共生社会
- ・外国人が安心して働き、生活できる多文化共生社会の形成

3. 多様な主体による共助社会づくり

⑩新たな「つながり」社会構築PJ

- ・日常生活支援サービス産業、地域課題を発見し解決ソーシャルビジネス等
- ・多様な主体の活動の継続性、人材育成、資金調達や資金循環等環境整備
- ・住民や地域社会が主体的に支え合う、地域と人がつながる共助社会を構築
- ・子供たちの郷土愛の醸成につながる社会活動、コミュニティ再生
- ・増大する医療や介護、福祉需要への対応
- ・地域と人がつながる、誰もが愛着を持ち安心して住み続けたいくなる中部の実現

4. 誰もが愛着と憧れを持ち、働き住み続けたいくなる地域づくり

共助社会

・多様な主体の育成と地域づくりへの展開

地域づくり・まちづくり

・誰もが愛着を持ち住み続けたいくなる地域づくり

・多世代交流によるコミュニティ再生

安心な暮らし

・地域特性に応じた最適な医療・介護・福祉環境の構築

5. 医療・介護、福祉における安心な暮らしの確保

中部圏・北陸圏連携
プロジェクト